



映画評論家 清水節さん「パディントン」

映画「パディントン」は、イギリス・ロンドンが舞台。

一人の紳士が丁寧な言葉遣いで道行く人に話しかけますが、なぜか誰からも相手にしてもらえません。なぜなら紳士は、“くま”だったから。

ペルーからはるばる自分の家を探しにやってきた“くま”は、親切なブラウン夫人と出会い、その一家の力を借りて、自分の家を探します。ですが、そんな彼を謎の美女ミリセントが狙っていたのです…。

全世界で大ヒットしている映画「パディントン」の魅力について、清水節さんに伺いました。

紳士な“くま”パディントンのたのしい物語

映画「パディントン」は、1958年に出版されたマイケル・ボンドの児童文学「くまのパディントン」シリーズを元に制作された作品です。

原作は40カ国以上で翻訳され、全世界3500万部の売上を誇ります。

監督はTVコメディ「マットとデヴィッド」のポール・キング。制作を担当しているのは「ハリーポッター」シリーズのプロデューサーであるデヴィッド・ハイマン。

原作者のマイケル・ボンドもカメオ出演しています。



TOHOシネマズ 六本木ヒルズ

そして、パディントンの声を担当するのは007シリーズで「Q」を演じている、若い女性に大人気のベン・ウィショー（日本語吹き替えは松坂桃李）。さらに、パディントンをつけ狙う謎の美女ミリセントを、ニコール・キッドマンが演じています。

全世界300億円越えの大ヒット作、ぜひご覧ください。

「パディントン」は、TOHOシネマズ 六本木ヒルズにて上映中です。

▶ TOHOシネマズ 六本木ヒルズ

(2016.01.26)

プロフィール

映画評論家・クリエイティブディレクター。1962年東京生まれ。共著書に新潮新書「スター・ウォーズ学」。企画・構成原案・取材を担当したWOWOW「ノンフィクションW 撮影監督ハリー三村のヒロシマ」でギャラクシー賞受賞。

